

社会課題解決へ

の世界に限らず、世の中
で広く求められる時代と
なった。サーキュラーエ
コノミー（循環経済）に
ついては、鉄鋼業界だけ
でなく、鋼材ユーザーで
あるお客さまの業界でも
注目されている。当社が

五十鈴社長・グループCEO
鈴木勝氏に聞く

水平リサイクルを実現

主万事業として展開するスチール事業は、事業は「お客さまのお役に立つ」というのが本分であり、サキユアエコーという新

——鉄鋼流通の中でもコ

イルセキシーは鉄スラッ
プの発生率が高いとい
「配炭費の取組が主で、
社会全体でますます重た
なる中、鉄鋼サプライチェ

たな「一次に対しても同じようにお役に立ちたいというのが出発点となっている」

——鉄鋼流通の中でもコイルセンターは鉄スクラップの発生量が比較的多い。「脱炭素への取り組みが社会全体でますます重要になる中、鉄鋼サプライチェーン

「ソノハナ」の物語は、資源を確保するに組むところから入る。その必要不可欠な役目になる考えである。

高炉メーカーは脱炭素の過程で電気の活用頻度が進んでいく流れがあり、鉄スクラップは後述に必要になる。コルセン社で発生するスクリューでは、高品質で電気を使いたく、特徴がある。今後はこの鉄鋼メーカーへ優先して、いく組かへ販売していく。右組と左組にそれぞれ積極的に関わってみたい。

サイズが大きめの取り回しを通して、循環型サプライチェーンとの連携を進めていこう。

—— サクラ大が得意とするカスケード II 階段式の再循環で五十鈴が担う役割は、

「刀剣式」では回収品をなるべく最大限活用できるというリソースや、人権を行使し、リユースできないものを最終的にリサイクルする。サクラ大もまたこの協業で重要な鉄を回収し、鉄鋼メーカーに戻して、原料として素材を生産する。「水素リサイクル」の実現に寄与したい。」

—— 五十鈴グループ単独ではなく環境対社会貢献の取組みを推進している。「五十鈴園木山サステナブル」で今年から太陽エネルギーを導入した。自費で光電板を導入し、一部を蓄電池で充て、災害地域に供給できるように準備中だ。地中に埋め込んでおくとよく検討されている。同事業を支援するため、グループ運送会社「グルックス」では納輸送用のトラックを導入した。独特な

太陽光・効率輸送でCO₂排出削減

「開閉された輸送機関システム（A1）で、輸送効率が最大化し、CO₂排出量を削減し、減炭貢献せよ」

——普及活動にも力を入れている。

「五十鈴」系サボトが都内の主要なリサイクルの分野を脱し、G₀出前搬送を行った。好評レビューに、依頼もいたっている。

——運搬取組みが奏功し、CO₂削減は着実に前進している。

「24年度のクルーバC₀削減率は20年度比の5.5%減だった。太陽光発電の生産増加で、工場外での電力入を検討しており、30年度に同30%の削減目標を達成する。排出量削減努力は、日本検査ユーティリティ第三が国際基準に達し、第三から省電を受けている。今後、カーボニュートラルに向けた取り組みを通じて、社会貢献の領域を拡大していきたい。」（倉成 泰之）

五〇鈴



五十鈴 × サイ클ーズ
循環型ビジネスを推進

[illegible]

CIRCULAR ECONOMY

五十鈴の循環型ビジネス全体の流れを表現したイメージ図

「動脈産業と静脈産業を結ぶネットワークを拡充し、回収した鉄材を一次加工・選別して鋼材サプライチェーンへ戻す“水平リサイクル”に取り組むことで、サステナブルなサプライチェーンを構築するとともに、持続可能な社会の実現を目指す」

先進事例を発表

ムを速く回収し、廃棄物削減に伴うCO₂の排出量の抑制はもちろ
ろ、処分費がかからず
買い取りに切り替わる
ことでコスト削減効果が期
待される。また、メーカに
よっては、新品に換え
て中古品の取りを通じ
て市場全体における自
社製品の流通量を増やす
ことができ、市場シエ
ラの拡大につながる。加

に加速して循環経済が実現する。
五十鈴は引き続きサイイ
クローズ社との連携によ
つて、動脈と静脈を結ぶ
ネットワークを拡充し、
サステナブルなサプライ
チェーン構築を推進して
いく。

五十鈴はサイイ
クローズのコ
ラボサイトは
こちらから

[illegible]

実践している。五ヶ鐘、シユレター・スクリュー、ブ業者がエックス・プロ社に、鉄鋼流通専門商社に、増った分をテラチーを活かして、また、テラチーの供給網構築している。

また、こうしてタキ



手ける。

○機器・リユースも

開発、多様な戦略
 ラインアップを
 展開し、流通に
 力を入れている。

鉄などの再資源化に貢献

大半は焼却や埋め立てに回されているのが現状だ。また、再資源化の内訳は鉄スラップが約半数を占め、その他は非鉄スラップ、廃プラスチック、木くず、ガラスなどに分類されている。このような課題に対し

OA機器のリユースも 手掛ける

て、環境配慮型の企業姿